

## 台湾通信 最終号

残暑お見舞い申し上げます。というより、続く酷暑の中、みなさんお元気でしょうか。自然災害の多い上半期でした。特に大阪北部地震、西日本豪雨は大きな被害をもたらしました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

さて、私たちは7月10日に本帰国しました。帰国前は、台湾のみなさんが、私たちの帰国を惜しんでくださって、食事に招いてくださったり、送別会をしてくださったりと、絶えず心もお腹もいっぱい1、2か月を過ごさせていただきました。特に立新教会の王牧師ご夫妻、兄弟姉妹とは、涙涙のお別れになりました。また、課輔班の低学年の子どもたちにお別れを告げると、「じゃあ、これから誰がお昼寝のあと髪を結びなおしてくれるの？」とハグ攻撃！「そこ？」と突っ込みながらも、子どもたちの半数は離婚家庭、両親がいたとしても、仕事で忙しく、慢性的にスキンシップや愛情が不足しているのだなと思われことでした。子どもたちがイエスさまの愛に満たされるよう続けて祈っていこうと思います。

7月10日帰国当日朝、皆さんに見送られて、台中を後にしました。桃園飛行場までは、立新教会の王牧師夫妻とフォン兄弟がそれぞれ車を出して下さり、12個200キロの預け荷物、プラスギリギリいっぱいの手荷物、そして私たち4人(頌子も台湾に帰省していたので)を飛行場まで送って下さいました。空港には、TEAMの仲間も駆けつけて下さり、最後祈って、笑顔でお別れしました。

そして成田到着！国外宣教委員会や理事の皆さん、寺田先生ご夫妻が空港で出迎えて下さいました。委員会の下田先生が大きな車を出して下さい、いっぱいの荷物も運んで下さり、大変助かりました。

私たちの本帰国に際しては、第四期の途中でもありましたが、主人の体調不調が主な原因と、決して積極的な理由ではなかったもので、送り出してくださいました皆さん、また、十分な奉仕もできないまま台湾でお別れしてきたみなさんには申し訳ない思いでいっぱい、私たちは、どちらにも顔向けできない状態でした。けれども、台湾の人も別れを惜しみながらも気持ちよく送り出してくださいましたし、日本のみなさんも温かく迎えて下さり、本当に感動で心が熱くなる思いでした。本当にありがとうございました。

今後は、東京練馬区の谷原キリスト教会のみなさまのご厚意で、私たちが教会訪問をする期間、教会の二階にある牧師館に住まわせていただくことになりました。本当に無理なお願いを気持ちよくお引き受け下さり、心から感謝します。

さて、9月からはできるだけたくさん教会を訪問させていただいて、最後の宣教報告をさせていただきたいと計画中です。とは言っても、時間にも限りがあり、すべての宣教区を訪問できるわけではありませんが、可能な限りご挨拶に伺いたいと願っています。よろしくお願いいたします。



最後に私たちの14年と3カ月に及ぶ台湾での宣教をいつも祈り支えてくださった祈りの友のみなさまに心からの感謝を表したいと思います。そして何より、変わらない愛でいつも私たちを愛し、ケアして下さった神さまに感謝し、その聖名をほめたたえます！

ハレルヤ！（千恵子記）

2018年8月

台湾宣教師 齋藤五十三、千恵子